

報道関係各位
Press Release



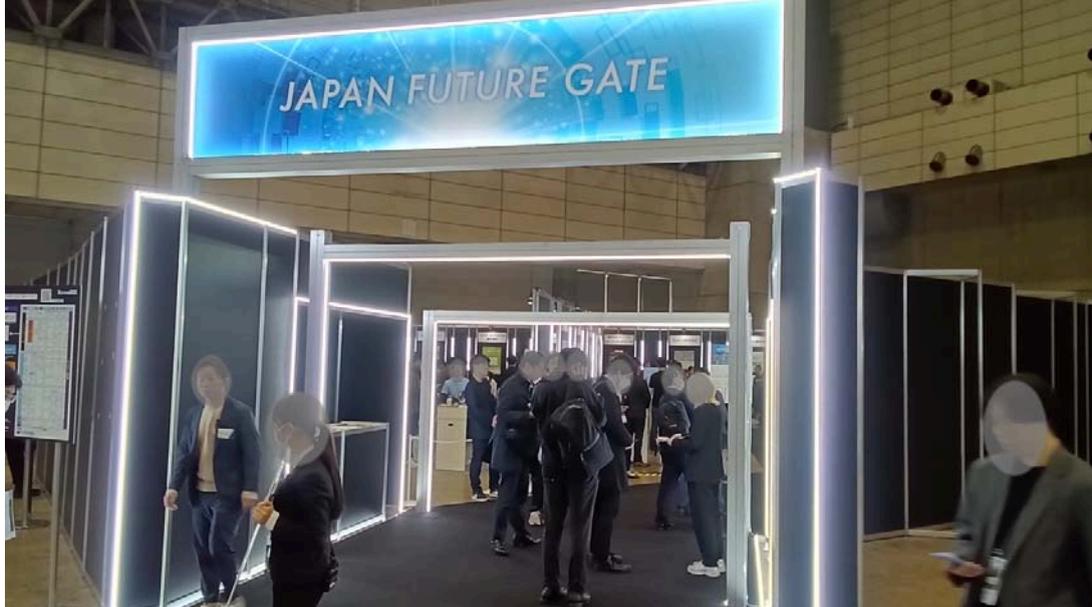
2026年3月6日
コグニティ株式会社

【調査報告】人的資本経営は“設計”の不足がボトルネック、 「4レイヤーの抜け」と“どうすれば良いか分からない”停滞

— DX総合EXPO「JAPAN FUTURE GATE」出展事後報告：
会場アンケート（少数回答）と現場の声からの示唆 —

知識表現AIを用い、会話・文章情報から組織課題を可視化するコグニティ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役：河野理愛、以下「コグニティ」）は、2026年2月25日（水）～27日（金）に幕張メッセ3ホールで開催された「DX総合EXPO」内の特設展示エリア「JAPAN FUTURE GATE（以下JFG）」に出展し、人的資本経営に関する会場アンケートおよび調査レポートの配布を実施しました。

会期中、当社ブースでは人的資本経営の説明に関心を示す来訪者が多く、アンケートには17名が協力してくださいました。そこでの直接の会話では、人的資本経営の知識有無にかかわらず、4レイヤーで整理する考え方と、COG-SUITEのサービス群を用いることで“設計可能な形”に落とし込める点に対し、強い驚きと関心が寄せられました。



写真：JAPAN FUTURE GATE入口（DX総合EXPO内）

■ 出展概要

コグニティはJFGエリアにブースを設け、人的資本経営を「4つのレイヤー」で整理する考え方と、COG-SUITEを構成するCOG-EVIDENCE / COG-TRACKINGを用いた「課題抽出→施策設計→定着・改善」の流れを、来訪者のテーマに合わせて個別に説明しました。会期中は人的資本経営に関するアンケート（キーワード選択式）を行い、あわせて「人的資本経営」「株価が動く、株主総会とは?」「技術で語る企業価値」などの調査レポートの配布も実施しました。



写真：コグニティブース（JFGエリア内）

■ JFG入場者数

	DAY1 (2/25)	DAY2 (2/26)	DAY3 (2/27)
入場者数	237人	320人	262人

表：JFG入場者数（主催者発表）

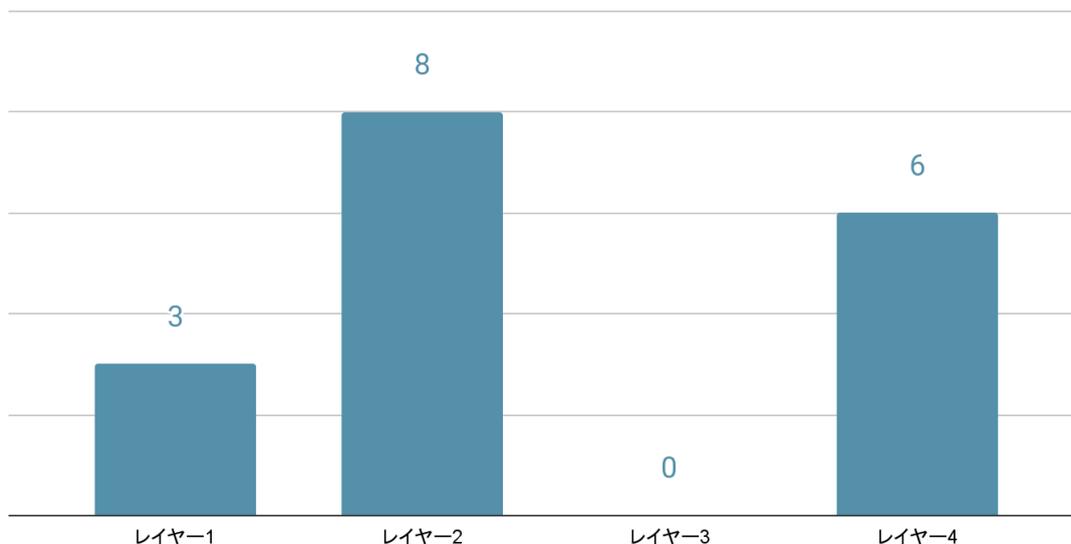
【表の見方】 JFG入場者数を日別に示します（DX総合EXPO全体の来場者数ではなく、JFGゲート通過者数）。

【読み取れること】 1日目 237人、2日目 320人、3日目 262人で、累計は819人でした。

【示唆】 JFGは“会場内の特設エリア”として、入場動機の設計が重要であり、エリア内の各ブース来訪は「短時間で濃い対話」に寄りやすい可能性があります。本リリースは、限られた接点の中で得られた反響を、現場の兆候として整理するものです。

■ 会場アンケートが示した「組織運用×価値創出」への関心

本アンケートは、ブース来訪者が「自社の職場での課題」に近いキーワードを選ぶ方式で実施しました。回答数は表の通り少数であり、統計的的代表性を意図したものではありません。あくまで会期中に得られた“現場の兆候”として整理します。



グラフ：会場アンケート（キーワード投票）の結果

レイヤー1	レイヤー2	レイヤー3	レイヤー4
採用・定着・離職・ 配置・育成・スキル・ 評価・納得感・ エンゲージ・ マネジメント負荷・ メンタル	連携・サイロ・ 情報共有・引き継ぎ・ 属人化・標準化・ 再現性・会議過多・ 意思決定停滞・ 心理的安全性	優先順位・施策分散・ 方新進党・戦略整合・ KPI設計・変革推進・ 責任・効果検証・ コンプライアンス	生産性・品質・ 顧客満足・売上・ 利益・継続率・ ブランド・採用力・ 投資家説明・開示・ 知的財産

表：各レイヤーで示したキーワード

【表の見方】 4つの欄は、人的資本経営をコグニティが整理した4レイヤー（人・組織・戦略整合・価値創出）に対応するキーワード群です。得票は、来訪者が関心のある（課題と感じる）キーワードが含まれる群を選択する方式で行いました。

【読み取れること】 投票は「組織の運用・連携（サイロ、情報共有、引き継ぎ、標準化、再現性、心理的安全性など）」および「価値創出・成果（生産性、品質、顧客満足、売上・利益、開示など）」側に寄る場面が見られました。一方で「戦略整合（優先順位、方針浸透、戦略整合、KPI設計、変革推進など）」は相対的に選ばれにくい傾向がありました。

【示唆】 人的資本経営の議論は“戦略（レイヤー3）”に寄せて語られがちですが、現場では「組織の運用（レイヤー2）」と「価値創出・開示（レイヤー4）」の設計が置き去りになりやすい可能性があります。4レイヤーで抜けを可視化し、施策の優先順位と運用設計に接続することが、導入・定着の近道になり得ます。

■ 現場の反応：“4レイヤーの抜け”と設計不在の停滞感

（※発言は趣旨を損なわない範囲で要約しています）

会期中のブース来訪者との対話では、人的資本経営の知識有無にかかわらず、次のような反応が複数見られました。

- 先程聞いた講演では、レイヤー2（組織の運用）とレイヤー4（価値創出・開示）が抜けていたように感じた。
- 人的資本経営は知っているが、「設計できる」という発想に驚いた。

- 人的資本経営は知っているが、設計ができるとは知らなかった。
 - 人的資本経営は、多くの企業が“どうすれば良いか分からない”状態に見える。
- また、配布した調査レポートについて「じっくり読んでみる」と述べる来場者が複数おり、技術の詳細を理解していなくても、考え方（4レイヤー）と設計可能性が直感的に伝わる点が特徴的でした。



写真：コグニティ ブースでの調査レポート配布（人的資本経営を中心に複数種）

■ コグニティの示唆

人的資本経営は、施策の数を増やすことではなく、現場（人・組織）の課題を抽出し、組織施策に結びつけ、企業戦略との整合を取り、価値創出へ接続していく“設計と運用”の取り組みです。今回の会場での反響は、人的資本経営が「概念としては知られている」一方で、実務では“設計に落とせない”ことによる停滞が生じている可能性を示唆しています。

コグニティは、会話・文章などの定性データを構造化し、改善に使える指標と行動に落ちる示唆へと変換することで、課題抽出から施策設計、定着・改善サイクルまでを支援してまいります。

■ レポート提供

会期中に会場で配布した調査レポート「人的資本経営－何から手を付けるべきか？－」の内容は、サイトからダウンロードして頂けます。

入手をご希望の方は、下記よりダウンロードしてください。

*ダウンロード：<https://cognitee.com/cta/surveydl>



図：調査レポート「人的資本経営－何から手を付けるべきか？」

■ トライアルのご案内：Baseline Review機能

コグニティは、会話・文章などの定性データを、独自の構造化技術により「改善に使える指標」と「行動に落ちる示唆」に変換する分析サービスを提供しています。商談・会議・社内共有・研修・顧客対応・IRなど、目的に応じてコミュニケーションの“伝わり方”と“成果につながる要因”を可視化し、改善のための施策と優先順位を提示します。

その入口として、短期間で現状課題と改善の方向性を把握できる「Baseline Review（お試し）」を5万円（税別）で2026年1月27日に提供開始しました。パフォーマンスが良いトーク/悪いトークの違い（構成、論点の置き方、説得の流れ等）や、最終版の再レビュー（Before/After比較）として、録画・音声・書類等を2本ご提出いただき、分析結果とブリーフィング1時間でフィードバックします（個人利用の場合は、ブリーフィングに代わりメールまたはオンラインセミナーで実施）。



申込ページ：<https://cognitee.com/baseline-review-cog-evidence>

【コグニティ株式会社 会社概要】

- 社名：コグニティ株式会社
- パーパス：技術の力で、思考バイアスなき社会を。
- 事業内容：定性情報の定量化技術を使った組織分析サービス
- 本社：〒140-0015 東京都品川区西大井一丁目1番2-208号
- 設立：2013年3月28日
- Web：<https://cognitee.com/>
- 資本金：6億円（準備金含む）
- 従業員：71名（リモートワーカー含む）
- 代表者：代表取締役 河野 理愛
- 受賞歴他：
 - EY Innovative Startup エンタープライズ部門受賞(2019)
 - 第11回 HRアワード 人材開発・育成部門 最優秀賞(2022)
 - 第22回 一般社団法人日本テレワーク協会 テレワーク推進賞 優秀賞受賞(2022)
 - 第3回TOKYOテレワークアワード 推進賞(2023)
 - 一般社団法人生成AI活用普及協会協議員(2023～)

本件に関するお問合せ
コグニティ株式会社 広報担当：奥井
Email: okuinagisa@cognitee.com TEL: 03-4212-8445